

「東京で I S S を観察する (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

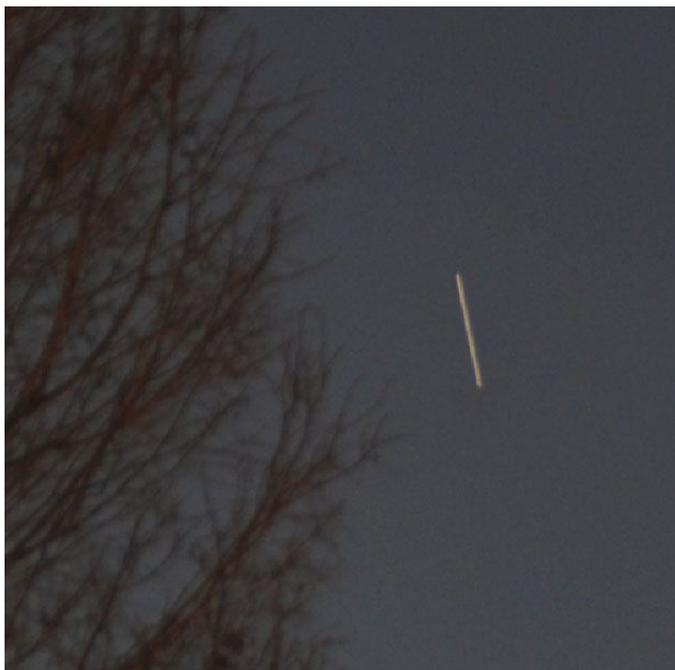
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この日はほぼ雲もなく、I S S の観望には絶好の条件だった。予報通りに、南西の地平から I S S が昇ってきた。事前に露出テストをしておいたので、適正な明るさで撮影できた。



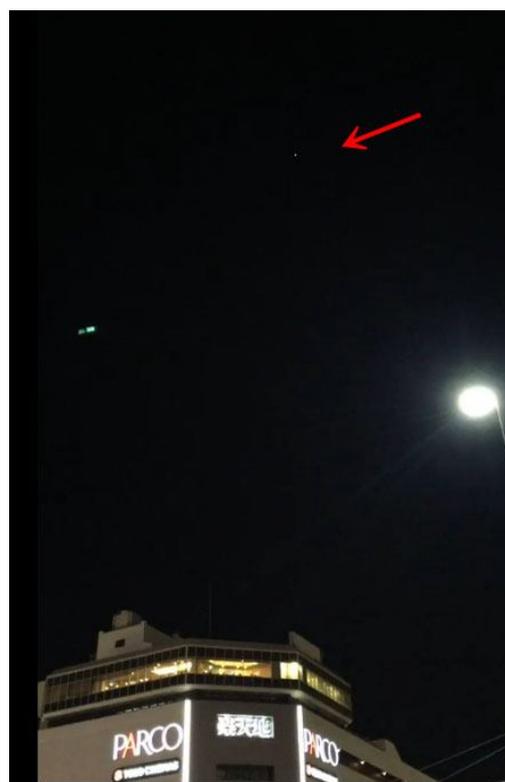
ちょうど大学の建物の上から、I S S は昇ってきた。まだ観測者との距離が遠いので暗く、小さい。



地上物と一緒に撮ると、望遠の具合がわかる。これは 100mm 程度にズームした結果だ。



高度が上がってくると、地平線付近よりも空が暗いので、露光時間を長くできるようになる。これは露光 15 秒での撮影。左側に白い恒星が写っているが、I S S の光軌の色は、わずかに黄色味がかっている。これは、I S S が太陽光を反射しているからだ。



I S S の写真は、一瞬をとらえてもあまり意味がない。一瞬をとらえると、I S S は輝点として写ってしまい、他の恒星や惑星と区別がつかなくなる。写真は錦糸町で友人の娘さんがスマホで撮った I S S だ。↓の先の輝点が I S S なのだが、これでは「I S S の写真です」という証拠は何もない。